2022 年度 福祉助成金（研究助成）完了報告書　提出用

公益財団法人 橋本財団
理事長 橋本 俊明 様

2023 年 5 月 31 日

ふりがな	エヌピーオーホウジン　おかやまけんこくさいだんたいきょうぎかい			
大学 研究機関名	ＮＰＯ法人岡山県国際団体協議会			
代表者名	役職名	理事長	氏名	青山　勲
連絡先	住所	〒700-0026 岡山市北区奉還町２－２－１　岡山国際交流センター６階		
	TEL	086-256-2535		
	E-mail	office@coinn.org		
	URL	coinn.org/jp/		
助成額	３，０００，０００円			
研究要旨	在住外国人の課題を調査し、対策案を検討した。県内外国人の約３割を占める技能実習生への法令違反や労働災害は少なくない。実習生の中には劣悪な労働環境に不満を抱き、高賃金を求めて失踪し、失踪先で犯罪に手を染める事例も少なくないという。特定技能への移行を希望する実習生から、紹介料を徴収して企業につなぐブローカーも暗躍している。その一方で、海外ではサプライチェーン全体において、人権侵害を予防する措置を義務付けるルールづくりが進んでいる。さらに欧米では、時給 15 ドルの最低賃金を求める運動が広がっている。 ネパール・ベトナム大使館へのインタビューから、同国人で互いに助け合っている状況が浮かび上がってきた。これは日本における支援が不足している現状を映し出していると言える。また、ドイツ・カナダ大使館へのインタビューからは、社会に統合するための支援が手厚く、差別を禁止し共生を推進する教育・啓発活動により、移民を積極的に受け入れる姿勢を持つ国民が多いことがわかる。県内外国人へのインタビューでは市民との交流を求める声が多く、外国人が受け入れられていると感じられる文化・社会の構築が不可欠となっている。			
研究の目的	2022 年度は、2021 年度の調査研究結果に基づいて、外国人受け入れのための望ましいプラットフォームづくりの基礎データを作成することを目的に調査研究を行なった。 調査の内容とその具体的手順は、以下の通りである。 （A）外国人材受入の制度と仕組みの課題を抽出し、（B）国内や海外の共存事例等から（C）岡山に於ける生活上の問題、就労上の問題、行政上の問題、将来的な夢（ライフプラン）の問題等の外国人受入課題を明確化し、その対策を検討する。 以上の調査を通して、企業・地域社会・行政等と外国人材受入の（D）望ましい制度・仕組を考察し、外国人材抜きには成り立たない現状及び改善策を広く岡山県内外の関係者と共有することを図る。 また 2023 年度に実施予定の「岡山における外国人材受入れのためのプラットフォーム構築」に必要となる基礎データ調査、及び (E)課題解決に向けた提案を行うことで、少子・超高齢化社会となる岡山県、ひいては日本の社会活性化に寄与することを目指す。			
研究の 実施方法	2021 年度に引き続き、2022 年度も文献調査を行なった。それと並行して、2021 年度のアンケート調査の結果をもとに、岡山県在住外国人の置かれている状況をより明確にするために、インタビュー調査を中心に行った。 インタビュー調査は、岡山県在住外国人、県内 16 自治体、外国人労働者の受け入れ先進国であるドイツ・カナダ大使館、また送り出し国であるネパール・ベトナム大使館に協力を依頼した。 インタビューの実施に際し、在住外国人は、仕事を終えての時間帯となることが多いため、オンライン(zoom)で行った。自治体や大使館は可能な限り対面でのインタビューを行った。 近年、欧米を中心に労働者の人権を重視する動きが高まり、サプライチェーン全体において、人権侵害を予防する措置を義務付けるルールづくりが進んでおり、日本でもその対応は不可避となっている。そこで 2022 年度の文献調査では、このルール作りに関する海外の動向も追うこととした。 さらに岡山県内および他県で実施している多文化共生の事例について調査し、県内自治体へのインタビュー調査を踏まえ、岡山県が参考にして実施できそうな取り組みを抽出した。			

研究の成果	2022 年度は、当事者とのインタビューを通して、以下の課題が明らかになった。 在住外国人は日本人との積極的な交流を求めているが、多くの場合、職場以外での交流は極めて少ない。自治体は地域の特性を生かしたイベントを開催している。しかし、配布される自治体のお知らせや Web サイトでは、必要な情報がどこで得られるかが分かりづらいという意見が多く聞かれた。また、年数回という開催頻度では、親睦を深めるには十分とは言えない。以上のことから、自治体からの情報伝達方法の改善と、より日常的に交流できる場作りが求められる。スポーツや文化活動を通じた取り組みが有効かもしれない。 労働環境に関しては、賃上げなどの更なる改善が求められる。また、労働評価の基準について、仕事の内容よりも態度が重視されるという意見が聞かれた。基準の明確化が必要とされている。 岡山県での生活については、全般的に評価は高く、都会すぎず、田舎すぎず、ちょうど良いという意見が多かった。従って、地域の人々との交流が活発になれば、長期に滞在してもらえる可能性があると言えるだろう。市民が心を開いて外国人を迎え入れる意識改革も必要である。
研究の成果の公表状況 今後の公表予定について	６月末以降に、COINN 実行委員会等で公表予定。

＊2023 年 5 月 31 日締切です。必要事項を入力のうえ Word ファイルをメールにてご提出ください。